

議会だより



「月山登山者の命を守る8人の精鋭」

もくじ

9月定例会	2～5P
一般質問	6～11P
仕事人	12P

第 101 号

9月定例議会開催される

9月定例議会が9日から12日までの4日間の会期で行われ、25年度の一般会計、特別会計の決算審査を行いました。

その他26年度補正予算4議案を含め19議案を原案通り可決・同意・認定。

議案審議に先立ち、6名の一般質問が行われ村長と活発な議論を交えました。

補正予算

☆ 平成26年度大蔵村一般会計補正予算（第4号）

- ゝ 大蔵村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- ゝ 大蔵村へき地診療所特別会計補正予算（第1号）
- ゝ 大蔵村介護保険特別会計補正予算（第1号）

（単位：千円）

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	39,000	3,489,000	縁結び奨励金の新設 銅山川発電流量調査業務委託料の追加等
国保会計	2,150	473,150	介護納付金の追加等
診療所	695	220,695	備品購入費の追加等
介護保険	2,361	327,361	25年度介護給付費国庫負担金償還金の追加等

主な議事

条例の改正

☆大蔵村保育の必要性の認定に関する条例の設定

・子ども・子育て支援法の施行に伴い、保育の必要性の認定について定める

☆大蔵村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の設定

・子ども・子育て支援法の施行に伴い、施設型給付や地域型給付を受けることができる運営基準について定める

☆大蔵村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の設定

・児童福祉法の改正により、地域型保育事業の認可基準について定める

☆大蔵村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の設定

・児童福祉法の改正により、事業を

行う事業者が厳守すべき基準について定める

☆大蔵村保育所設置条例の一部改正

・子ども・子育て支援法の施行に伴い、施設の目的に関する事項等について改正の必要が生じたため、一部を変更

審査意見書

審査に付された平成25年度一般会計及び各特別会計を合わせた決算収支の状況は、いずれも関係法令に準拠しており、計数についても正確である。また、予算執行及び事務処理についても適正であり、所期の行政効果を挙げたものと認められる。

今後の地方財政は、これまで以上に歳出の抑制・効率化による税収の確保が強く求められるが、行政課題に対して柔軟に対応できる体制の確立や住民の福祉向上のため何が必要なのか十分に検討しながら、行政運営を進めていただきたい。

監査委員 海藤 敏昭
監査委員 加藤 忠己

決算審査 特別委員会

25年度決算の審査を行い全案件認定されました。

問 一般寄付金の内訳は。

答 ふるさと納税15件で179万4千円・村内寄付金30万円・（株）カドワキより63万円・信用基金協会解散給付金136万3千円。

問 湯の台採草地謝礼の算出単価と面積は。

答 10a当たり1500円で面積は33万3971㎡。

問 基盤整備に係る村道用地収用について、代金が今だに支払われないのはなぜか。

答 換地処分が確定してからの支払いになる。再度県と話をし検討したい。

問 一部地方でごみの野焼きをやっているが、内容に

より燃やせるものがあるのか。

答 基本的にごみの野焼きは禁止されているが、村山地方の一部で、煙による果樹の害虫駆除とのことで許可されている。

問 田圃の畦畔害虫の駆除も認められるのか。

答 害虫駆除の野焼き申請をして、消防署・警察署の許可が出れば可能と思われる。

問 予防接種の今後の動向と「デング熱」の予防手段はないのか。

答 国の「定期的予防接種法」によると、今後増える方向にあり、村でも対応していきたい。デング熱の予防手段はないので、県の指導により対応していく。

問 ドクターヘリ誘導業務委託料149万3千円の当初予算との差額は。

例年固定された金額で、誘導員のみに支払われてい

るのか。

答 当初予算を精査した結果多少の差額が出た。誘導員に支払われ固定されている。

問 実際誘導した件数は。誘導の研修はやっているのか。

答 去年は3件で、研修は広域消防より指導がある。

問 自主防災備品の助成金は地区の人数割りで算定できないのか。

答 県からの助成事業でもあり、40万円が限度とされる。

問 「新庄もがみを元気にする会」負担金1万3千700円と会の趣旨は。

答 新庄・最上の観光振興を目的に、8市町村が会費を出して開催している。

問 村活性化補助金の申請が困難な地区の対応は。

答 村でも相談に乗るので声をかけていただきたい。

問 赤松生涯学習センター管理委託料69万6千円の内訳は。

学習センター水路の清掃をボランティアでやったが、今後は予算化すべきと思う。
答 合宿等職員不在時の警備員の報酬等管理費用。土砂の堆積状態を見て今後対応する。

問 芝生養生委託料424万2千円の内訳と契約はどのうなっているのか。

答 芝刈り・除草剤散布・追肥等で、特殊な作業でもあり随意契約としている。

問 小学校プール監視員の人員と、非常時の対応は。

答 高校生3名で、教職員の研修により指導している。

問 四力村浄水場膜交換委託料が年々高くなっているのは（92万4千円）なぜか。

答 積算において材料費が毎年上昇していることによる。

再生可能エネルギー行政視察

伊佐市は鹿児島県の北端、熊本・宮崎県境に位置し、平成20年に大口市と菱刈町が合併して誕生した。

面積392㎢・人口2万7500人で、川内川が市を横断し南西部に「東洋のナイヤガラ」と呼ばれる「曾木の滝」がある。滝幅210m・高さ12mの大滝で、その水を利用したのが新曾木発電所である。

新曾木と言うからには旧曾木発電所があり、明治42年に設立されたが幾度の洪水によって壊滅し、伊佐市は跡地を曾木の滝観光に活用する計画を模索する。その概略計画を日本工営株式会社（水力発電所の計画設計・製造施工・維持管理）に委託し「曾木の滝再生可能エネルギー

創出事業」を立ち上げ、国の2分1補助を受け平成24年に着工、25年5月より営業開始となる。

事業概略

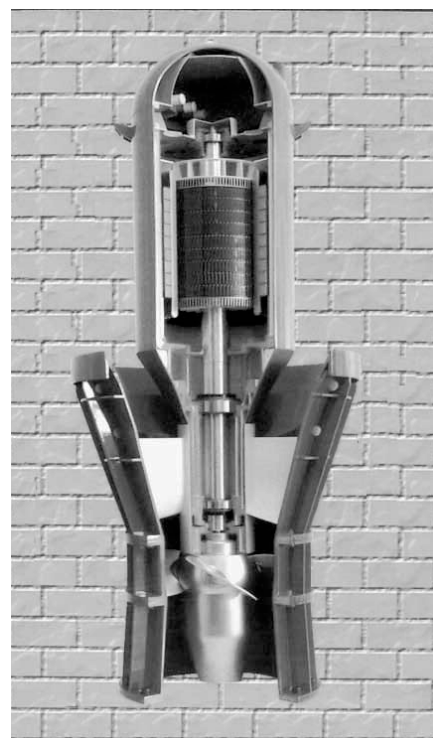
1. 全量固定買取制度により売電
2. 小水力発電を通した「再生可能エネルギー」の教育活動
3. 曾木の滝公園の「観光活性化支援」

設備概要

曾木の滝より毎秒5.5㎡を取水し、水中タービン（縦軸固定羽根バルブ水車）を回転し、490kw出力。

その発電量は、年間400万kWh、一般家庭1000軒分の使用量に相当する。

日本工営直営の新曾木水力発電（株）は、発電収益より「地



水中タービン



曾木の滝

八鍬 信一 議員
海藤 邦夫 議員

域振興支援資金」として伊佐市へ還元。両者の共働により売電・発電学習・観光・雇用をお互いのメリットとしてうまく運営している。

当施設の特徴は全長100m落差10mもあれば設置できることから、大蔵村でも可能ではあるが、調査から運営までのパートナー選定が重要とされる。村民の福利厚生または電力活用にもつながることから、是非前向きに検討したい。

衆参両議院議長・内閣総理大臣・農林水産大臣に意見書提出（趣旨のみ掲載）

議員提案

農業・農村の再生に向けた農業委員会制度・組織改革は慎重に検討を

政府・与党における農業委員会制度・組織のあり方の見直しにあたっては、農業・農村の再構築に向け農業委員会組織の役割・機能が十分に発揮されるように慎重かつ丁寧な検討を行うように、次の事項を強く要望します。

1. 農業者の代表組織・自主管理組織としての農業委員会の基本的性格を確保し、農業委員の信任が担保され、活動の基盤となっている「公選制」については維持されること。
2. 農業委員会内において、広く地域農業に対する意見を聴取するためにも、農業者団体からの推薦制度は必要であること。
3. 個々の農業委員会の活動を支援強化するためには、都道府県農業会議、全国農業会議所のネットワークは必要不可欠であること。
4. 農地の権利移動を許可制から届出制にすることは、農地転用規則の抜け道をつくるものであるので、慎重に検討されること。

「農政改革」の再検討と緊急の過剰米処理を

政府が今すすめようとしている「農政改革」は、農業だけでなく、国民の食料と地域の将来に重大な影響を及ぼしかねないものです。

政府の「農政改革」の動きの中で、2014年度産は超早場米の消費地での取引価格が暴落し、全国的な価格の大暴落も強く懸念されます。今年から経営所得安定対策が半減され、米価変動補てん交付金も事実上廃止されたもどで、米価がさらに暴落するなら、再生産が根底から脅かされることとなります。とりわけ、担い手層の経営への打撃ははかりしれないものがあります。

長年にわたり、生産者は政府の減反、転作方針に協力してきました。その点からも、主食の米の需給と価格の安定をはかるのは現在も政府の重要な役割です。過剰基調が明確になっている今、政府の責任で需給の

調整を行うのは当然であり、緊急に対策を実施されるように、次の事項を強く要望します。

1. 農政改革にあたっては、農業の担い手の軸を家族経営とし、これを支援する諸制度の充実、農業委員会、農協の役割の強化等、生産の振興と食料自給率を向上に資するものを行うこと。
2. 緊急に過剰米処理を行うこと。

請願

請願第3号

農政改革の再検討と緊急の過剰米処理を求める請願

結果 採択

請願者

農氏運動山形県連合会
会長 花鳥賊義廣



加藤 忠己 議員

防犯灯のLED化を

村長 防犯灯のLED化進めていく

問 防犯灯は、村が管理するものと地域において管理するものがある。
現在ある蛍光灯や水銀灯をLED化する事により、電気料金とCO₂の排出量を削減する事が出来る。経費削減や環境面で、自治体として取り組む課題であると思う。防犯灯をLED化した場合の費用やリスクについて調査し、歩行者の安全性の確保と犯罪防止の為、暗い夜道が少しでも無くなるよう、実現に向けて検討すべきではないか。



答 ご存知のとおり防犯灯は地区の内外に設置され、さまざまな器具の防犯灯が設置されている。中には設置後長年経過し老朽化したものも見受けられる。村が設置した防犯灯については、設置後の管理や電気料金の負担などを地区にお願いしている現状である。村としても省エネや節電、しいては地球温暖化防止への取り組みを進めるため、数年前よりLED防犯灯を設置している。
今後、5年位かけて村内400基程ある防犯灯をすべてLED化できないかと考えていく。

また、停電時は数時間点灯するような蓄電池式防犯灯の設置も検討していく。

問 昨今、稲作に対する政府の補助金や取り巻く環境の変化、電気料金の高騰が農家の大きな負担となっている現状がある。

村の基幹産業である稲作の継続、自然環境の保全、生産性の向上と農家の負担軽減の為、平成23年定例会と同じ質問であるが、農業用揚水機の電気料金に補助金を交付する考えは。

答 電気料金の高騰や、国の農業政策の見直し、米の取引価格の低水準化など、稲作農業を取り巻く状況は大変厳しくなっていることは承知している。

農業用揚水機の電気料金に補助を 村長 補助は困難

しかし、村では生産基盤の整備と園芸施設の団地化を行い、農地の有効利用や農業経営の効率化を進め、地域農業の担い手となる経営体を育成、確保することにより、こうした課題を解決できると考えている。

農業経営が大変厳しいことは理解できるが、平成23の定例会で、電気料金は経常的な経費であり、補助の対象ではないことを説明したとおり、村として、農業用揚水機の電気料金に補助は困難である。



長南 正一 議員

機は熟した 村道里道線の改良は

村長 整備は必要であると認識

問1 村道里道線は、村道土合・滝ノ沢線と豊牧・柳沢線とを結び豊牧地区内を横断する重要路線である。数年前に改良工事の調整も実施済みであるが、工事が手付かずの状態となっている。

特に冬期間における通行の危険度は非常に高く、早急な改良工事が必要である。27年度には四ヶ村地区のスクールバス路線の工事も完了の予定であり、その後間断なく、里道線の改良に取り掛かるよう、次年計画を示すべきでは。

答1 村では小中学校の統合に伴うスクールバスの運行路線を優先的に整備し、毎年巨額の予算を投じて整備を進めている。
本年度も村道・平林線の道路改良工事や、土合・滝ノ沢線の落石防止工事に取り組んでいる。



豊牧地区内

村道里道線の道路整備については、以前から議会の場で問題提起されている。村では平成18年度に寺沢川を横断する箇所260mの道路基本設計を行い、道路幅員を7mで拡張した場合、概算工事費で約1億円の費用が掛かると試算している。

本路線については村営バスが運行する路線であり、整備は必要であると認識している。寺沢川を横断する箇所の改良により一層安全を図りたいと思う。

今後とも、国の補助制度等を活用しながら、村の総合計画に基づき順次整備を進めていく。

問2 スクールバス路線の改良を優先させた豊牧地区民の心情、行政との強い信頼関係を図る上で、是非28年度（早期）には実施すべきと思う。

答2 平成19年に私が村長に就任して以来一貫した姿勢として、道路は金を生み出す社会資本であると捉えている。人命に係わるということもあり、早急に修理修繕する必要がある所はやらねばならないという考えである。



寺沢川付近

大蔵村の道路は新庄・最上八市町村で一番整備されていると自負している。平林線の道路が出来れば、次は迷わず里道線であると理解して頂きたい。



中島 幸夫 議員

ほたる火祭りの今後について

村長 連携を図り地域活性化を支援

問 四ヶ村の棚田が「全国棚田百選」に選出されたことを受け、地元では「棚田保存会」を立上げ、棚田の活用を思考し実行したのが現在の「棚田ほたる火祭り」である。

今回で12回目となるが「オカリナ演奏」等も定着し、県内外からの来客も多く、現在では村最大のイベントになっていると言っても過言ではない。これは、地元の「ほたる火祭り」にかける熱意は勿論、県・村の支援に対し心より感謝している。

このイベントを活かし、村の産業と地域の活性化が増進し観光面においても誘客が期待される。また、生活排水が全く入らない棚田で栽培される米を「棚田米」としてのブランド化等、今後「ほたる火祭り」を継続するには更なる努力が必要ではないか。

答 今年は1500人を超える来場者が訪れた。1200本のほたる火の輝きのように、一人の力だけではなく、この地区の人たちの思いが結集された一大イベントとなっている。



現在、少子高齢化に伴い地域経済の縮小が大きな問題としてある。そうした意味で、四ヶ村の棚田などの自然景観や地域住民の温かな人情

受け継がれてきた伝統文化などの地域資源を保存活用しながら、農業と観光分野の連携にこれまで以上に力を入れ、交流人口の拡大を目指すのであればならないとの思いを強く持っている。ほたる火コンサートが一度性のイベントとして終えるのではなく、年中を通した交流人口の拡大による地域の活性化と、将来にわたって保存継承できるように、地元の方々や実行委員会と連携を図りながら、更なる充実支援に取り組んでいきたいと考えている。



ほたる火コンサート

問3 作業効率の悪い棚田の保全と減反のあり方に良策は

答3 3年の改善計画を立てて、作付けを検討していただくことで活用できる補助の制度もある。相談していただきたい。

問2 会場で行った募金の使い道は。

答2 ほたる火コンサートが続けられるように積立し、繰り越している。

棚田を守っている方々に対する使い道等も考えている。

日陰バス停留所に待合所の設置を

村長 用地の確保や維持管理等を総合的に検討



佐藤 勝 議員

問 日陰のバス停留所には、椅子も待合所も無く、雨や雪の日でも野ざらしの状態であり、利用者の多くは高齢者や身体に障害を持つ「生活弱者」である。以前にはバス停留所隣の民家を待合所代わりに利用していたが、今は家主が不在となり、利用できない状態である。また、冬期間に於いては路面が滑り、反対側のバス停まで道路を横断しようとした人とバスの接触事故も起きている。これは、しっかりとした待合所があれば妨げたのではないか。また、これ等の事は「日陰バス停」に限らず、村営バス停全体の問題である。危険防止や福祉向上の為に待合所は絶対に必要と思うが。

答 最近の村内におけるバス待合所の整備については、地区からの要望が多く寄せられ、待合所を設置するた



めの土地が確保出来た、塩上竹野、白須賀のバス停留所に整備を行った。いずれも、村で整備を行い地区の方にその維持管理をお願いしている。日陰バス停留所については、以前は、近隣の方の善意で、バス待合所の機能を果たしていたためであり、バス待合所の設置について十分な検討を行っていないのが実情である。しかし、地域の方々が安心して路線バスなどを利用するために重要との認識を持つているので、総合的に検討していく。

村運営は施政方針に従い 進行しているか

村長 農と食による地域の
魅力創造事業に取り組む

問1 施政方針の基本となる5項目の中に、農業の推進策では農業の所得向上に向けて、農・商・工が連携した6次産業化を強力に推進することとあるが、具体策はどのようなものか。

答1 施設園芸を中心とした生産体制の整備を支援している。今年度から、農と食による地域の魅力創造事業に取組み、トマトを活用した6次産業化へ向けた加工品開発と加工技術の確立を図っている。

さらに、ワラビの産地確立を図る支援を行い、産地として確立した後に、加工に取組む計画で、息の長い取り組みとなっている。

問2 定住の促進では、空き家の活用・地域おこし協力隊の招聘や、イターン・Uターン者を増やすことを検討するとなっているが、その計画と事業の進捗状況は？

答2 空き家等の活用策としてはこれまで同様に県の空き家バンクの活用と併せ、活用できる空き家を希望者に斡旋する取り組みを進めている。

地域おこし協力隊の招聘については、その招聘に向け森林管理署の宿舎を村で活用できるよう話を進めている。募集を行い、来年度からの採用を目指している。



矢口 智 議員

「肘折温泉」 街中に風情を

村長 キーワードは「湯治」

問 今年7月の暑い日、肘折温泉街を訪れる機会があった。湯治客が闊歩する午後のひと時はまさに湯の街の情緒を感じさせる光景であった。しかしその温泉街、「温泉街らしい風情」が今一つ物足りないと感じるのは私だけだろうか。最近恒例の催しとなっている「ひじおりの灯」が唯一風情を醸し出していると感じているが、温泉街全体から1200年の歴史や湯治場……という本来の素晴らしい魅力の伝わりが弱いと感じている。各旅館がそれぞれ趣向を凝らし、魅力アップ・誘客へと努力しているのは認めつつも、温泉街全体としての統一感が今一つと感じている。

整備を進めてきたのだろうか。行政としての統一性が薄いと感じている。

視点を改めてみよう。肘折に住む一般住民の目に温泉街はどう映っているのだろうか。「お客様目線」だけでなく「暮らす人が満足」という点も大いに考えなければならぬ。満足して暮らす住民がいてこそその観光地だ。

風情Ⅱ住みやすさ、が両立し得る総合的な構想を練り上げ、住民納得、関係者納得の景観の整備や楽しい催し。ハード事業の整備が図られるべきと思う。

観光地「肘折温泉」が目指すべき方向性、各課を超えた統一性のある事業推進の方策は。

答 観光地「肘折温泉」が目指す方向性については、村が直接方向性を示すものではなく、旅館商店を含む地元住民の意思が反映され

示されるべきと考え、平成3年から方向性を議論している。キーワードは「湯治」。

「伝統的湯治」と「現代版湯治」の融合で周辺の地域資源を活用した新しい湯治文化を創造していくもので、平成3年の「元祖 湯治のむら」から一貫して基本的な方向性は変わっていない。

バブル経済の崩壊以降、温泉観光地が厳しい状況にある中、由布院、酸ヶ湯温泉、乳頭温泉等は、自然、歴史、文化等の地域資源を最大限に活用した温泉地域づくりといわれている。肘折温泉は、積雪量で常に酸ヶ湯温泉と日本一を争う「秘湯中の秘湯」であり、

月山・葉山の大自然、月山登拝道としての歴史文化等、素材は「本物志向」に充分対応できるものであると考える。

今後は、棚田を核とした「ほたる火コンサート」、東北芸工大との共同プロジェ



肘折温泉街

クト「ひじおりの灯」等のイベント事業を再検証し、景観に配慮したハード面の再確認も必要と考える。また、来訪者から要望のある屋台バーの増設や商店の閉店時間延長、旅館縁側の夜間点灯の実施は早急に検討していかなければならない。さらに、マスメディアへのPR事業を積極的に行い、最も重要な肘折地区の個々の旅館、商店、住民の「おもてなし」の更なるレベルアップが第一と考える。



海藤 邦夫 議員

村職員の定住と 村外居住(定住)をどう考える

村長 地域活性化や危機管理面で有効施策

問1 20年後の人口動態調査が市町村別に発表され、大蔵村の人口は半減し1800人位になると予測された。近い将来、村行政の継続が難しい状況になるのではと心配される。

村存続のためにも、いかに若者が定住できるかが大きな課題であり、これを考えるに村職員が率先して村内に定住することが理想ではないか。

しかし、結婚や個人の自由、さらには村内における住宅事情により、定住や居住が進まないのではないかと。村職員はもちろん、村民や村内に勤めている方々が、安心して将来にわたり大蔵村に定住できる宅地分譲や賃貸住宅等の環境整備の方向性はどこまで検討しているのか。

答1 人口減少に伴う様々な課題について私も危惧している。

これまで村では子育て支援を充実し定住の促進を図っている。今後とも人口増加への対応策を積極的に展開したいと考えている。

職員が村内に定住することとは、地域の活性化や危機管理などの面からも私は大賛成であり、事あるごとに職員に話しているが、これは、個人それぞれの自由があり、職員の考えにまかせなければならない部分である。

しかし、大蔵村では民間のアパートなどが皆無のため、そうした方々の受け皿として、宅地分譲や賃貸住宅等の整備は有効な施策と考えている。

村としては村内業者の総合建築力を活かした企業体と一緒に低価格で分譲若しくは賃貸できるような分譲地を、大坪福田工業団地線や国道458号沿線に整備したいと考えて、候補地を絞り込んでいる。今のところ、決定するまでに至っていないが、総合的に判断してなるべく早期に事業を進めたいと考えている。



定住促進住宅のイメージ



作業状況



仕事人

月山登山道を守る

登山道整備の歴史に目を向ければ、そもそも山岳信仰の目的で一年に千人を超える大勢の登山者で賑わった時代にさかのぼるもので、肘折地区の有志が、また地元青年団等が携わってきたもの。その後、村が管理を引き継いで現在に至る。

登山道整備

春のパトロールから夏の草刈り作業、そして秋のパトロールまで行い、特に夏の草刈り作業は、8名体制で、月山山頂から肘折登山口に向かって、3泊4日の日程で行われます。

険しい登山道を、機械を背負って行く刈り払いには、高度な技術と体力が無ければ出来ません。

そして荷揚げ。荷揚げと聞くと不思議に思うかもしれませんが、8人が食べる食料なのです。厳選された食材を避難小屋に運ぶ各自の荷物の重さは30kgを超えるそうです。

そして、全作業を終えて登山道入り口まで帰ってきたときは少量のゴミ(資源)だけ。不思議な感じがしますね。

素晴らしい避難小屋

途中にある念仏ヶ原避難小屋は、訪れる登山者の誰もが驚く行き届いた管理と充実した設備。20組を超える寝具やすぐ近くにある水場等、無人の登山小屋では東北で一番との評価。とても過ごしやすいですよ。

大変なこと

肘折から山頂まで20kmを超える、東北最大と言われる上級者向けのルート。夏の険しい登山道の刈り払い作業が一番大変。そして、メンバーの命をつなぐ食料運び。



険しい所は手作業で

楽しいこと

美しい花々やブナの原生林、立谷沢川の清い流れ、心洗われる場面が次から次へと現れる素晴らしい自然を満喫できること。県内外から訪れる登山者との心温まる交流も楽しみ。そしてなにより、大変な作業を終え、仲間と囲む夕食のひと時。電気もテレビも無い。だから会話が弾む。まさに「至福のひととき」ですね。

使命感・登山者の命を守る

毎年欠かさず草を刈り、倒木を片付け、標識テープを付けたたり、登山者が道に迷ったり怪我をしたりしないよう維持を続ける。まさに命を守るためなのです。肘折・月山へは、手つかずの自然とダイナミックなルート、そして、行き届いた管理。関東方面からの登山者が多いのもうなずけます。

取材を終えて

登山道管理は私たちの想像を超える世界の作業と実感。しかし、険しい自然界の中で登山者の命を守る一本の道を整備し続ける8人のメンバーに、男のロマンを強烈に感じた体験でした。40年を超えるベテラン管理人から、今年初挑戦の方まで多彩なメンバー。これからも末永く続けて(楽しんで)ほしいと願っています。

コラム

久しぶりに稲刈りの手伝いに出かけた。自家田の耕作委託をお願いしてから約20年。都会の中学生の稲刈り体験と同じかと思いつつも、物心ついた時から毎年変わらない黄金色の田の風景にあらためて感慨の情を覚えるものだった。

米の値段が低調の予想と報道されているが、春から秋まで手間をかけてようやく実り、そして迎える収穫の時こそ一年で一番の喜びの時なのだと思います。米を作る人も、見守る地域の人も。

普段は山の仕事で杉林の中。杉丸太の上で食べる昼食が一番の楽しみ。林間からこぼれる日差しを浴びながらコーヒーを堪能していると、日頃のもやもやが、消えてなくなるような気がする。

人間は内にこもってばかりいてはいけません。外に出よう。外の空気をいっぱい吸おう・・・と言いつつ、深夜、部屋にこもってパソコンとにらめっこ。

広報委員 矢口 智